

高校と中学校の校長となったおかげで、様々な競技の大会を見る機会に恵まれている。今までは、自分が携わってきたソフトテニス以外の競技を見ることはほとんどなかった。

初めて高校野球をスタンドから見た。同じ競技のはずではあるが、プロ野球とは全く違う。高校野球のファンになる方がいるのもわかるような気がした。一投一打、全力プレーの連続は、見る者を虜にする力がある。そこには“感動”がある。

バスケットボールの試合では、いきなりベンチに座ることとなった。監督の隣で、最初は居心地がわるかったのだが、つつい声を出しそうになってしまった。目の前で繰り広げられるスピーディーな展開は、迫力があり見応えがある。

弓道の会場にも行った。全くわからない世界である。静かであることくらいは予想がついたが、いったいどこから見ていいのか、立ち入ってはいけないエリアはどこなのか。恐る恐る観察してから行動した。凜とした雰囲気の中で、的をめがけて矢を射る。それが実にかっこいい。

陸上競技場にも足を運んだ。あのような大きな会場で競技ができることは幸せなことである。トラック競技とフィールド競技がある。トラック競技は、放送でレーンごとに名前が紹介される。ハレの舞台である。ところが、フィールド競技の方は、そういったことが少ないように思う。それでも、多くの観衆の前で躍動する姿を見てもらえるのは、ありがたいことである。大型の電光掲示板には名前と記録も表示される。他の競技からすると、特別なことであるように思う。

剣道の会場にも初めて行った。会場には、他の競技とはまた違った空気があった。競技の特性なのだろうか。ちゃんとしている。きちんとしている。やはり、剣道はこうでなくてはならない。目の前で竹刀がぶつかり合う真剣勝負には、緊張感と迫力がある。

柔道の試合も初めて見た。剣道もそうだが、きちんとした礼から試合が始まる。わずか数秒で決まってしまう試合もあれば、互いに攻め合い、僅差で決まる試合もある。男子は迫力があり、それはそれでいいのだが、女子の試合を見てみると、痛くはないのだろうか、けがをしないのだろうかと心配になってくる。娘をもつ父親としては、そんな見方をしてしまう。

卓球の会場に行くと、体育館に卓球台がいくつも並んでいた。数えると20台近くある。自分の学校を探すのが一苦勞である。ソフトテニスの雰囲気とはまた違うものがあった。やはり、試合には流れというものがあるように感じた。勝ち上がっていく選手というものは、素人が見てもわかるような気がする。

ずいぶんと昔のことだが、水泳部の引率で県大会と東北大会に行ったことがあった。野田中学校の水泳部も県大会に出場した。水泳部女子が県大会に出発する朝、校長から話をした。私が話をしている間に、その場にいた全員目が変わった。この選手たちは、県大会が自分たちの勝負の場であることが分かっている。確かな目標をもっている。常日頃からコーチなど指導者の話を聞くことができている。その目から、いろいろなことが分かった。

そもそも日々の練習を積み上げてこないと、こうはならない。残念ながら、中学生の誰でもが、同じような目ができるわけではない。同じような目になるわけではない。どの競技も、選ばれた一部の選手だけであろう。県大会に臨む“目”というものがある。水泳部女子のメンバーから、そのことを教わった。彼女たちは、東北大会にも出場し、賞状を持って帰ってきた。実に立派である。